福祉のまちづくりと防災まちづくりを結びつけたイベント開催と取組団体の分析

正会員　○川端寛文*1
同　　福和伸夫*2

防災まちづくり　　福祉の街づくり　　人にやさしい
防災イベント　　災害時簡易ﾄｲﾚ

1　はじめに

2006年11月26日に愛知県半田市の知多半田駅前に新しくオープンした再開発ビルの3階にある半田市民交流センターを借り切って「みんなで楽しむ防災まちづくりフェスティバル」が開催された。

ここで取り組まれたそれぞれのコンテンツに参考となる要素が含まれていることと、取組団体の今回の取組に至る過程について防災まちづくりを進める上での教訓が含まれていると考えるので、その概要を報告する。

２　取り組みの経緯と概要

今回の取り組みは、日本建築学会災害委員会の 2006 年度防災市民講座の助成を得て日本建築学会東海支部都市計画委員会と半田災害支援ボランティアコーディネーターの会（以下「半田ＶＣの会」という）が中心となり、半田市、地元町内、福祉ボランティア団体など 16 団体が参加する実行委員会の下で実施された。

目的は、障害者、高齢者、子供などすべての人を対象にした防災まちづくりイベントを実現することであった。

この企画は、当初の段階には、大ホールでの講演会的なものであったが、実行委員会で、「人が多く集まると障害者が緊張することになるし、出演者にも優しくない。」という議論を踏まえて、さまざまな企画を並列的に実行する形式がとられた。（表 1、図 1）

表１企画の内容と実施場所

場所	企画内容
ホール	防災カルタ（午前）、オープンセレモニー、ファミリーコンサート（手話つき）、絵本の読み聞かせ、手話寸劇
ミーティングルームA	耐震ミニ講義、ストローローハウスコンテスト
ミーティングルームB	防災用品の展示販売、高齢者の手作り作品と駄菓子の販売
市民活ルームA･B･C	紙ぶるる製作、災害時簡易トイレ製作、防災啓発パネル展示
市民活ルームD	耐震相談窓口、人まちクラブ半田パネル展示
子育て総合支援セン	防災紙芝居
ロビー	総合受付、防災クイズ、ロープワーク
壁面ギャラリー	岩滑区、NPOりんりん、社会福祉法人むそう･ふわりの防災活動紹介パネル
駅前ロータリー	はしご車試乗体験

3　特筆すべきコンテンツ

○　絵本の読み聞かせ

絵本の「1000 の風、1000 のチェロ」を読み聞かせる内容で、手話通訳も行われた。

○　手話寸劇

高齢者が訪問詐欺に出会う内容を手話をしながら声で

図１　主な取組

Development of community event on disaster mitigation based on established experience of normalization activties

KAWABATA Hirohumi, and FUKUWA Nobuo

も演じるもので、聴覚障害者と健常者が同時に楽しめる。

○　ストローハウスコンテスト

市販の太目のストローと大型のゼムクリップで構造物を作り、高さと振動に対する強さを競うもので、小学生から高齢者までかなり集中して取り組めた。子供企画や親子企画での活用が期待できる。

○　大型紙芝居

紙芝居は、幼児から大人まで楽しめ、複製も容易で防災啓発コンテンツとしての有効性は高いと思われた。

○　災害時簡易トイレ作り

半田ＶＣの会が独自に開発し普及しているもので、折りたたみの便座を便器となるペール缶などの廃容器に合わせて作るもので、災害時に役に立つうえ、災害時をイメージさせる啓発効果も大きいといえる。

４　今回の取り組みにいたる各団体の発展過程

今回の企画を担った半田市内の団体は表2のようなものであるが、それぞれに固有の発展過程があるのでヒアリングを基に整理する。それぞれの団体は互いに構成員が重複しており、相互に影響しつつ、それぞれも発展成長を遂げている。

○　キリンの会

25 年前から、市内の 2 図書館や新美南吉記念館などで定期的に読み聞かせを取り組んでいる。最近、大人を対象にした夜語りの会や、養護学校で障害者に読み聞かせを行うなど対象が子供から広がってきている。また、防災ということで震災、戦災、伊勢湾台風の話などを取り上げるようになった。

○　ゆりかご

子育て支援や各種講座における託児ボランティアなどをするグループで、子育てサロンや親子連れイベントが発展してクリスマスファミリーコンサートなどを企画するようになった。その結果若い親子だけでなくいろいろな世代の参加する取組を行うようになった。

○　人まちクラブ半田

市が進める人にやさしい街づくりを応援する団体で、中学校区ごとのワークショップを支援している。防災の中に「人にやさしい」の視点が大切というパネルを作成した。

○　ひかりの会

手話サークルで、昼の部と夜の部があり、市の福祉センターで活動している。半田ＶＣの会との掛け持ちが多い。耳が不自由な人を外にできるだけ連れ出すことを追求している。半田ＶＣの会が寸劇を取り組んでいるのに触発されて、耳が不自由な人向けに災害時の持ち出し袋が大切という手話寸劇を最初に取り組んだ。

○　ＮＰＯりんりん・社会福祉法人むそう・ふわり

高齢者介護や知的障害者を支援する組織である。スタッフの地震に対する意識が高まる中で、地震時における施設のあり方を検討し、2005 年度にそれぞれ地震時を想定した訓練を地域の住民の支援も受けて開催した。それ以後、半田ＶＣの会の支援も得て、継続的に活動している。

表２　企画を担った半田市内の団体

団体名	構成員	フェスティバルでの役割	通常の目的・役割
キリンの会	60人	絵本「千の風、千のチェロ」の読み聞かせ	絵本などの読み聞かせボランティア
ゆりかご	50人	ファミリーコンサートの企画運営	子育て支援、託児ボランティア
人まちクラブ半田	18人	防災と人に優しいを結びつけたパネル展示フェスティバルの記録、インターネットでの発信	各中学校区での人に優しいワークショップの運営企画(人に優しいまちづくり支援)
ひかり友の会	70人	手話劇、手話コンサート	手話サークル
NPOりんりん	30人	高齢者の手作り製品の販売、防災活動のパネル展示	高齢者介護のNPO
社会福祉法人むそう・ふわり	27人	駄菓子の販売、防災活動のパネル展示	知的障害者の支援団体、授産施設として喫茶店や駄菓子屋などを
半田災害支援ボランティアコーディネーターの会	100人	フェスティバルの企画運営、防災カルタ、防災クイズ、ロープワーク、災害用トイレ作り、防災グッズの販売、防災紙	ボランティアコーディネーターの育成、半田市全体の防災の取組支援、半田防災活動センターの運営

○　半田ＶＣの会

災害時のボランティアコーディネーター養成講座の受講生により 2001 年に組織され、その後半田市内で受講修了者を千人以上にすることを目的に講座を続けている。2002 年から講座の中に寸劇を取り入れた。防災を「人にやさしい」の視点で実施することを目指している。2005 年に県からの助成を得て空き店舗を活用した半田防災活動センターを開設し、助成がなくなった今も商工会議所ビルの一角を借りて活動を続けている。そのころから、災害時簡易トイレの普及や家具対策の普及にも取り組んでいる。

社会福祉協議会からの依頼で、中学校の総合学習「福祉実践教室」にも取り組み、その中で災害時の障害者の対応などを中学生に考えさせている。

５　まとめ

災害時における障害者や高齢者の対応を検討することは防災の場面でよく取り組まれていることであるが、平時に障害者、高齢者、子供などを含めたすべての人が防災に触れ楽しむような総合的なイベントはこれまでになく、今回の取組は多くの貴重な教訓を生み出したといえる。

今回の活動の各コンテンツは、個々の団体に蓄積されたノウハウや技術を基にした高度なものだったが、それぞれは移転が可能であり、他での取り組みの参考になるものと考えられる。

また、各団体の発展過程には、防災と福祉の融合する展開があり、そのことによって質的な発展があったと考えられる。

今後、各地域で防災まちづくりを展開する上で、このような教訓を生かしてゆくことが望まれる。

*1　愛知県庁
*2　名古屋大学大学院環境学研究科・教授・工博
*1 Aichi Prefectural Office.
*2 Prof., Graduate, School of Environmental Studies, Nagoya Univ., Dr.Eng.